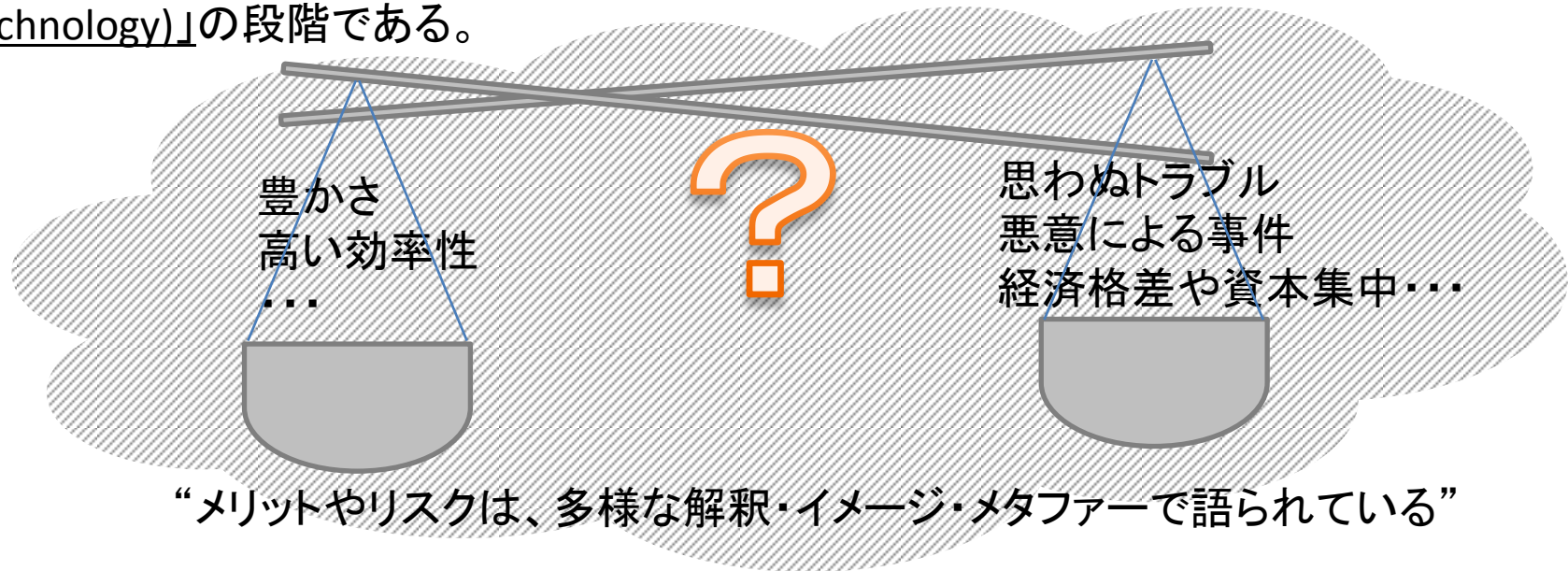


「人と情報のエコシステム」領域の必要性

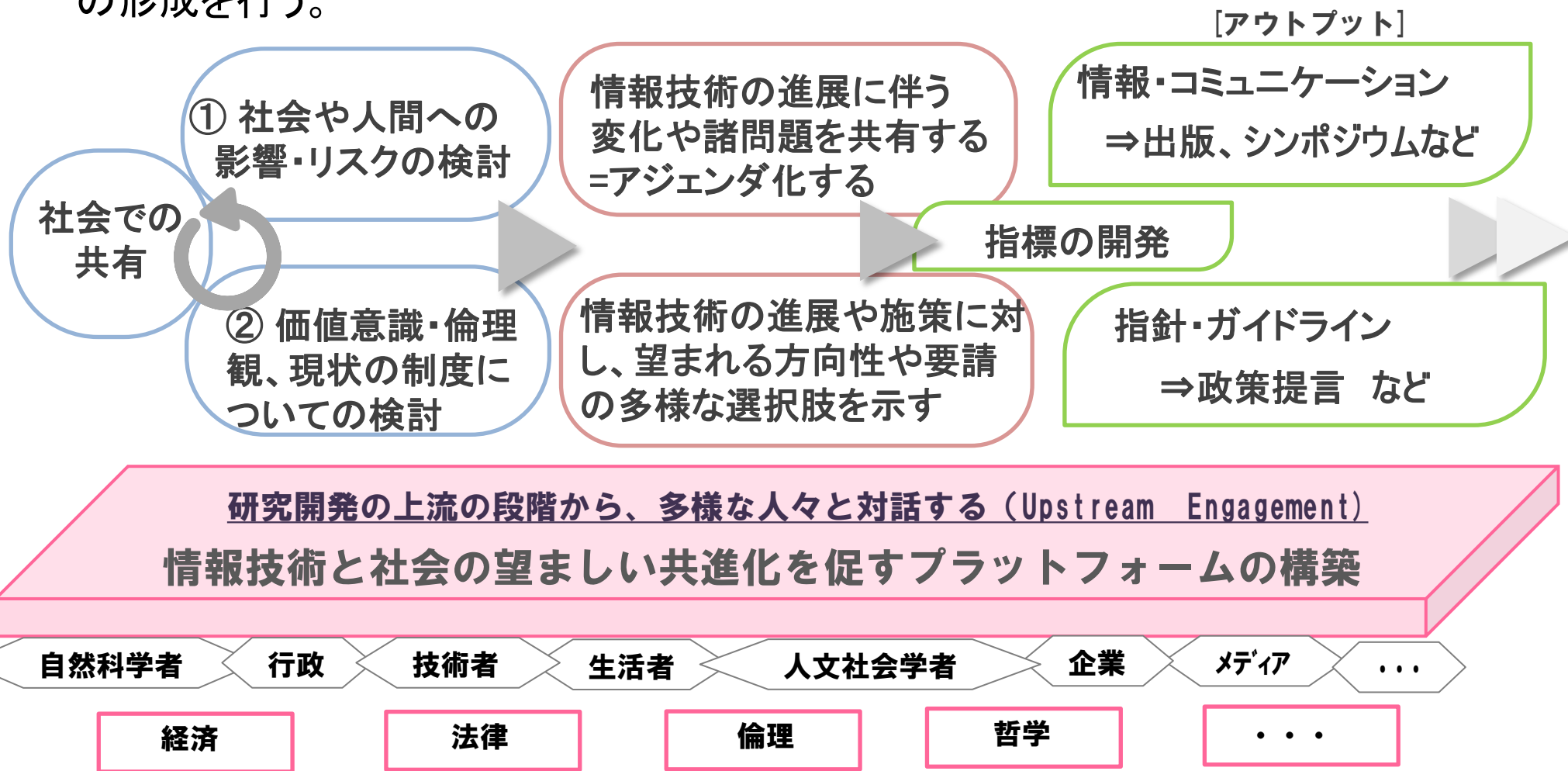
- ビッグデータを活用した人工知能、IoT、ロボット、といった情報技術は、社会に新たな大きな変化をもたらさうる。
しかし、
- 現時点ではその潜在的なメリットと負のリスクが明瞭ではない「萌芽的技術(emerging technology)」の段階である。



- よって、研究開発の上流工程から多様なステークホルダーの主観的意見を取り入れ、問題やテーマのフレーミングの幅を広げていくことが重要となる。

「人と情報のエコシステム」領域の目標

- 情報技術と人間のなじみがとれている社会を目指すために、情報技術がもたらすメリットと負のリスクを特定し、技術や制度へ反映していく共進化プラットフォームの形成を行う。



本領域が対象とする情報技術と社会問題

【対象とする情報技術】

- ・主にビッグデータを活用した人工知能、ロボット、IoTなどを想定
- ・その中でも開発の上流段階で社会からのフィードバックを受けることが重要な現在発展中の技術や今後開発される技術、さらに、既に社会に実装されている技術も対象となる

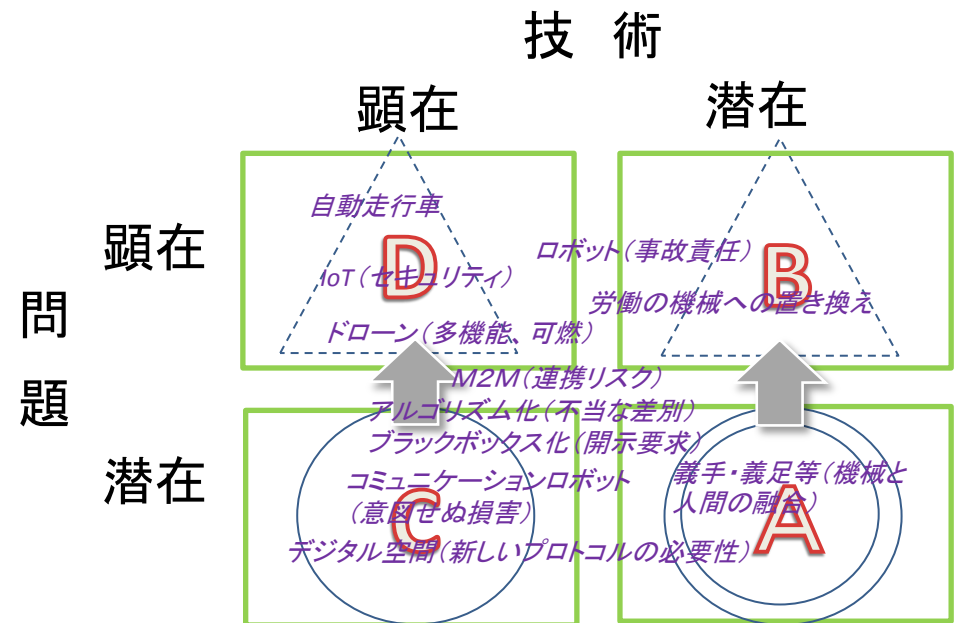
【対象となる社会問題】

・A: 潜在技術の潜在的な社会問題

今後現れる技術(潜在技術)がもたらすと予測される、社会問題(潜在的な社会問題)

・C: 顕在技術の潜在的な社会問題

既にある技術(顕在技術)がもたらしているが、多くの人に共有されていない社会問題(潜在的な社会問題)



研究開発テーマの取り組みの例

さまざまなリスクの最小化

もたらされるメリットの最大化

B-1:法律・
制度

ロボット憲章／AI憲章

情報倫理

ガイドライン
/提言

B-2:倫理・
哲学

超スマート社会におけるセキュリティ

オープンフォーラム

制度
/政策

B-3:経済・
雇用

寡占や集中による問題の抑止・対処

産業応用、サイエンス応用の進展

B-4:教育

異分野間の連携を促進

社会と技術を牽引する人材の養成

リテラシー格差拡大の抑止

B-5:人間中
心技術開発

アルゴリズム開示、情報トレーサビリティ技術

対応技術
/制御技術

技術開発への倫理や哲学のインプット

人材/
コミュニティ

A:共進化プ
ラットフォーム

海外発信、連携

情報発信

変化を知り、議論する方法や仕組み

多様な選択肢を検討・提示する仕組み

スピーディで柔軟な制度設計・法制度改正ができる仕組み

なじみなどの価値や社会の規範の検討

共通基盤プロジェクト